



認定NPO法人「いわき放射能市民測定室たらちね」の活動から 2回連載（後編）

今なお必要な「心のケア」。

2011年3月に起きた福島第一原子力発電所の事故後、放射能測定や甲状腺検診など幅広い活動に取り組んできた認定NPO法人「いわき放射能市民測定室たらちね」（以下、たらちね）。3年前からは心のケアにも取り組んでいます。大震災から10年以上たった今になっても、子どもや親の心のケアが必要とされているのが現状です。



鈴木 薫（すずき かおり）さん

福島県いわき市小名浜出身。福島第一原発事故後、いわき市在住の母親たちと「いわきアクション！ママの会」を設立。2011年11月に「いわき放射能市民測定室たらちね」の事務局長に就任。

遊びやマッサージを通して子どもをサポート

「震災から10年が過ぎて、やっと当時の思いを吐き出してくれるようになったお母さんもいるんですよ」と話すのは、たらちね事務局長の鈴木薫さん。震災当時、妊娠中だった人や乳幼児を抱えて避難生活を送ったお母さんたちは、原発事故の情報も乏しいなかで強い不安を感じながら過ごしていたといいます。

たらちねは、お母さんたちが集まって食品の放射能測定を行うことから活動を始め、クリニック開院、甲状腺検査など、活動の幅を広げてきました。心のケアの必要性を感じ、主に母子を対象にした取り組みを始めたのは2018年のこと。「あとれ たらちね ワルンペ」「同 シッピリカ」と名付けられた施設では、箱庭遊び、お絵かき、粘土、“ごっこ遊び”などを通じた子どもの心のケアを行っています。子どもは言葉でうまく思いを伝えられないこともあるため、遊びを通して表現するサポートをしているのです。また、マッサージで緊張をほぐすケアをすることも。

「幼稚園児から小学生までが利用していますが、最近とくに多いのは震災前・直後に生まれた10歳くらいの子どもたち。『学校で落ち着きがないのが心配』といった理由で来ていて、直接には震災との関連はありません。でも、お母さんたちの話によく耳を傾けてみると、妊婦のときに親戚の家に避難して気を使っていたこと、夫と放射能についての意見が食い違って苦しかったことなど、出産前後に抱えていたストレスや不安に関する話があふれるようになってくるんですよ」

寄り添っていくことで平穏を取り戻す

たらちねでは、親からの日常的な子育て相談にもものっていて、臨床心理士や乳幼児精神科医など専門家によるサポート体制も備えています。震災当時に子どもが2、3歳で、必死で避難生活を送っていたお母さんのなかには、「そのときの子どもに関する記憶がない」と話す人も少なくないそうです。

「子どもが親の大変なようすを察して、『いい子にしないといけない』と我慢しておとなしくしていたのではないかと精神科の先生が話していました。そのときの我慢の反動を今、親へのわがままや登校拒否といった形で表現する子どももいます。親は心配だと思いますが、そうやって表現できるのは悪いことではありません。子どもも親も、心の底にたまった澱が出てくる時期なのだと感じています」

鈴木さんは、何より親と同じ目線で話を聞くことを大切にしているそうです。「たらちねのスタッフも同じ被災者なので、お母さんの話に共感することは多く、原発事故後に被ばくを心配して断乳した話を聞くと、みんな『私もそうだった』と言うんですね。寄り添うことで親も子も心の平穏を取り戻すことがあります」

しかし、震災から10年がたった今、今度は新型コロナウイルスの影響で不自由な生活を強いられるなど、親子の環境に新たなストレスも生まれています。

「ストレスが心に及ぼす影響は、時間がたつてから出てくることもあります。これから心のケアが、ますます必要になるのではないのでしょうか」



写真左・中）箱庭遊び、ごっこ遊び、お絵かきなど、遊びの力で子どものこころを活性化させる「あとれ たらちね ワルンペ」のようす
写真右）ボディーワークを中心にしたマッサージから子どもたちの身体のこりをほぐし、心の安定を取り戻すメニューも準備しています（写真提供／いわき放射能市民測定室たらちね）

放射能検査状況について

2021年度の検査数(カッコ内は検出件数)／2021年5月13日現在
※最新の検査状況は下記左側の二次元コードよりご覧いただけます。

総計: 229(3) 不検出率: 98.7%

2020年度の検査数 総数2138(31) 不検出率98.6%

青果	41(0)	2020年度、れんこん(3.5～7.8Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
しいたけ	4(3)	生しいたけ(5.5～9.0Bq/kg)と、2020年度は岩手県産乾しいたけ(5.0Bq/kg)、産直原木しいたけ(カット)80g(11Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	7(0)	2020年度に続き、5月13日現在で放射能の検出はありません。
米・米飯類	0(0)	2020年産米の検査は27産地29検体の玄米で検査し、栃木こしひかり(3.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。白米で再検査したところ不検出でした。 ※放射能の多くはぬか部分に蓄積します。検出された栃木こしひかりは白米でのお届けとなります。

牛乳、肉、卵	11(0)	産地ごとに定期的に検査しています。2020年度に続き、5月13日現在で放射能の検出はありません。
魚介類	16(0)	2020年度に続き、5月13日現在で放射能の検出はありません。
飲料水・飲料	6(0)	2020年度に続き、5月13日現在で放射能の検出はありません。
乳幼児用食品	24(0)	2020年度に続き、5月13日現在で放射能の検出はありません。
その他加工食品	120(0)	2020年度、ほしいも(3.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。

※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。



●週次の「放射能関係のお知らせ」はインターネットに掲載しています。

●インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・パルシステム茨城 栃木・パルシステム福島・パルシステム静岡・パルシステム新潟ときめき

パルシステム
問合せセンター

0120-868-014

※通話料は無料です。 ※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨

甲斐センター ■0120-28-5891
西桂センター ■0120-32-1061
一宮センター ■0120-21-9898

パルシステム群馬

高崎センター ■0120-60-5118
渋川センター ■0120-36-3315
東毛センター ■0120-63-3735

※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。